



独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

発達障害教育情報センター

発達障害のある子どもを支援するための教育情報を発信しています

平成25年度 専門研究B「高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への指導・支援に関する研究-授業を中心とした指導・支援の在り方-」より

【54】高等学校における発達障害等への支援をどう考えるか

キーワード：高等学校、特別支援教育、指導・支援、わかる授業づくり

【この研究では】

通常の学級における発達障害等の特別な支援を必要とする子どもが学びやすい配慮や支援等については、学校生活全般を一人の教師が担う小学校に比べて、中学校、高等学校では教科担任制をとり、支援体制づくりにおいても困難な面があることなどから、十分な取組ができていない現状があります。特に高等学校では、課程や学科等の違いなど教育のシステムが多様化しており、授業の工夫だけでなく、試験に関する配慮、評価の方法、進路指導等も大きな課題となることから、小学校、中学校とは異なる対応についての検討が必要です。高等学校になると、学習に対する苦手意識が固定化し、意欲があまりみられない生徒も出てきます。しかし、わかりやすい授業と支援や配慮の工夫、学びやすい科目や教科の設定、個に応じた評価方法等により、学ぶ意欲が高まり自立する力が伸びていく生徒も少なくないと思われます。さらに、高等学校における指導・支援を充実させていくためには、個への配慮・支援だけでなく、学級全体への働きかけも考えていく必要があります。

そこで本研究では、高等学校における特別支援教育の体制整備の充実と生徒の実態に応じた指導・支援の在り方について、研究協力校における実践を通して、その重要なポイントとなることについて検討しました。

【研究をして見えてきたこと】

研究協力校における実践では、特に授業を中心とした指導・支援の在り方に焦点を当てました。授業のユニバーサルデザイン化、習熟度別・少人数授業、個別的な指導の場の工夫、教科を越えた授業研究会、TTによる指導や支援員、ボランティアの活用など、生徒の実態や教員のニーズに応じた配慮や支援の工夫により、各校の生徒の学ぶ意欲が変わるという成果が得られました。これらの実践をもとに、高等学校における特別支援教育の体制整備の充実と生徒の実態に応じた指導・支援の在り方について、「多角的な実態把握」「組織的な対応・校内支援体制」「教育課程・指導形態の工夫」「実態に応じた指導・支援の工夫」「意欲を高める学習評価の工夫」「中高連携と支援の連続性」「キャリア教育・進路指導」の7つの観点から、現状と課題を整理し、大切にしたいポイントについてまとめました。

○研究協力校における支援の実際

○多様な学びのニーズに応える7つの観点

- 「生徒指導による学ぶ姿勢づくりとわかりやすい授業を目指した授業研究」
- 「ユニバーサルデザインの授業実践と発達障害のある生徒への個別支援」
- 「生徒の実態に応じた、学び合いを活かしたわかりやすい授業づくり」
- 「わかりやすい授業、特別クラスの実践、個別面談による生徒との関係づくり」
- 「習熟度別授業、少人数授業を活用した丁寧でわかりやすい授業づくり」
- 「ユニバーサルデザインの授業づくりと意欲的に参加できる学習活動の工夫」



<p>1 多角的な実態把握</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学校の実情に合った実態把握 (2) 多様で柔軟な実態把握 (3) 早期からの実態把握 (4) 生徒の実態に関する教職員の共通理解 (5) 保護者や外部機関との連携・協力 	<p>2 組織的な対応、校内支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 組織による校内支援体制の構築 (2) 管理職（学校長）のリーダーシップ (3) 活性化するためのキーパーソンの存在と動き (4) 教職員の意識向上と共通理解
<p>3 教育課程、指導形態の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 教師の教育観・指導観の共通認識 (2) 生徒のニーズに応じた工夫の必要感 (3) 学校設定科目、学校設定教科 (4) 効果的で柔軟な指導形態の工夫 	<p>【学校設定科目・教科の工夫例】</p> <p>「マルチベーシック」 基礎・標準・応用の3ステップ教材を活用</p> <p>「コアベーシック」 義務教育段階の学習内容の学び直し</p> <p>「コーピング」 学習スキル、人間関係スキルの習得</p> <p>「心理学」 自己理解やコミュニケーションスキル等</p> <p>【わかる授業づくりの視点】</p> <p>授業の構成（活動時間の明確化） 教材教具の工夫 教室環境の整備、指示・教示の工夫 学習形態の工夫（ペア、グループ） 板書・ノートイク・プリント</p> <p>【定期考査等の配慮】</p> <p>別室受験、試験時間の延長、ノートの持込み、文字拡大やルビ振り、解答用紙、選択肢の工夫</p> <p>【評価の工夫】</p> <p>個別の課題、レポート評価、提出物や授業態度、個人内評価、絶対評価、生徒の相互評価 等</p> <p>【25年度高校入試で実施された配慮】</p> <p>別室受験、会場・座席位置の配慮、補助具の使用、ヒアリング試験での配慮・免除、時間延長、問題用紙等の拡大、面接試験での話し方の配慮、保護者等の別室待機、介助員等の同席 等</p>
<p>4 実態に応じた指導・支援の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) わかる授業と学び直しの視点 (2) 教科を超えた共通理解と支援の共有化 (3) 授業改善と生徒の変容の共通理解の場の確保 (4) 生徒の実態に応じた個別的な支援 	
<p>5 意欲を高める学習評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 定期考査等での問題作成、実施上の配慮 (2) 高校卒業資格としての評価の在り方 (3) 評定のための評価、指導改善のための評価 	
<p>6 中高連携と支援の連続性</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 効果的な情報交換の方法の工夫 (2) 個別の指導計画、個別的教育支援計画の作成と活用 (3) 高校入試における配慮のガイドラインの作成 	
<p>7 キャリア教育・進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自己理解と適性に応じた将来設計 (2) 職業観や勤労観を育てる教師の姿勢 (3) 個別的教育支援計画の活用 (4) 就労に関する専門機関との連携 	

【研究組織】 研究代表者 笹森洋樹
 研究分担者 梅田真理・伊藤由美・玉木宗久・海津亜希子・小松幸恵・柘植雅義・岡本邦広・渥美義賢・廣瀬由美子

【研究課題名】
 「高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への指導・支援に関する研究
 —授業を中心とした指導・支援の在り方—」（平成24～25年度）

【もっと詳しくお知りになりたい場合は】
 これらの報告書は、いずれも研究所webページにて全文掲載されています。
<http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/9719/seika4.pdf>

【本研究紹介シートの文責】
 笹森 洋樹

本研究紹介シートは、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所で行った研究を基に作成しています。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 (National Institute of Special Needs Education; NISE)
 〒239-8585 横須賀市野比5-1-1 URL: <http://www.nise.go.jp/>